

推しがいることによるメリット、デメリットと社会への影響 (気仙沼高校・2年4組31番)

1目的

推しがいることで**若者の精神面**にどのような影響が出るか、どんな効果が期待されるか明らかにする

2背景

- 若者の自殺率上昇⇒心の拠り所⇒自己肯定感↓
- 推しのコンサートに参加⇒ファンに**抗うつ作用**、**不安傾向**が改善(今井ほか、2010)
よって...適切な**推し方**をすれば精神面に良い影響が出る

3方法

1. 聞き取り調査
2. 気仙沼高校2学年へのアンケート調査
3. ケーススタディ(回答者の中から3名)

4調査結果

調査1

東北工業大学 M教授への聞き取り調査

- 推しを作りやすい人 ⇒ **自己肯定感が低く、承認欲求**が高い
- 推しに依存しやすい人 ⇒ **母性と執着心**が高い (ファン歴の長さに比例)



依存防止に推しを複数つくれば良いのでは

調査2

推しがいるか、どんな感情になるかのアンケート

対象 気仙沼高校2年生
回答数 130



図1 推しがいるとなりやすい感情のグラフ

参考文献

■今井 有里紗・砂田 純子・大木 桃代.2010.ファン心理と心理的健康に関する検討. 生活科学研究 68:67-79
□東北工業大学 M教授,気仙沼高校2年生生徒3名への聞き取り調査

ポジティブになることが多い

5まとめ

- 推しをつくりやすい人⇒自己肯定感が低い(調査1)
- ファン歴の長さとの依存の強さは比例(調査1,3)
- 推しがいる⇒**ポジティブ感情**高め(調査2)
- 推し⇒自己肯定感を上げてくれる(調査3)
- 推しが活動してるか⇒自己肯定感に**差**(調査3)

結論

推しという存在は自己肯定感を向上させるなど**良い影響**を与え、**ポジティブな精神状態**をもたらす効果があるしかし...依存しすぎることもあるため**複数つくっておく**とよい

今後の展望

推しがいない人に推しをつくってもらい、感情や**実生活面**の変化を見る

調査3

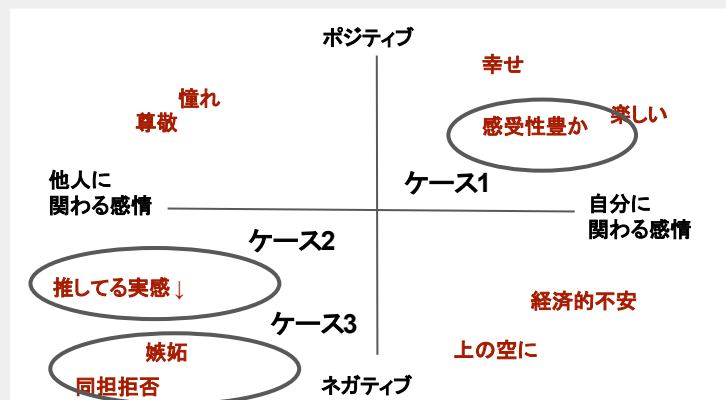


図2 推している時の感情の分類 (調査2アンケートから)

図2のケース1～3の生徒への聞き取り調査

ケース1 Aさん(女子、アニメファン歴約10年)

- 元々自己肯定感高め⇒**更に高く**
- 推しが辛い⇒自分も辛い⇒**感受性の向上**

ケース2 Bさん(女子、ジャニーズファン歴約10年)

- 推しが活動している⇒自己肯定感の上昇 (応援している実感)

ケース3 Cさん(女子、ジャニーズファン歴約3年)

- (推しのライブ等に行くため)見た目に気を遣う⇒褒められる⇒自己肯定感の上昇へ
- 自分の方が他の人より推しのことが好き ⇒**同担拒否**へ※

※同担拒否...自分以外のファンがその推しを推すことを嫌悪、拒否すること

3人の共通点

- **ファン歴が長い**
- **強い依存**(いないと生きていけない等...)